

## 2018年1月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500 hPa 高度をみると、極付近は正偏差で、対流圏の極うずは分裂した。大西洋～ユーラシア大陸北部で波列パターンが卓越し、大西洋中緯度帯、西シベリアで正偏差、英国の北、東アジア北部で負偏差となった。また、ベーリング海でも正偏差が明瞭だった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は南アジア～中国で平年と比べて北寄りを流れた。海面気圧は、極付近は正偏差だった。シベリア高気圧は北西側への張り出しが平年より強かった。アリューシャン低気圧は平年より弱かった。850 hPa 気温は、北緯60度以北は概ね高温偏差で、特にバレンツ海、ベーリング海で明瞭だった。一方、東アジア北部、米国南部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋東部～インドネシア付近、カリブ海付近で活発、日付変更線付近～中部太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インド洋～太平洋中部を東進した。対流圏上層では、インド洋～インドネシア付近で高気圧性循環偏差、日付変更線付近で低気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対でみられた。対流圏下層では、インド洋～インドネシア西部で低気圧性循環偏差、太平洋で高気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対でみられた。海面気圧は、インド洋～中部

太平洋赤道域で負偏差、太平洋東部～アフリカで正偏差となった。南方振動指数は+0.9だった。

### 世界の天候

2018年1月の世界の月平均気温偏差は+0.21°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、6番目に高い値となった。1月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

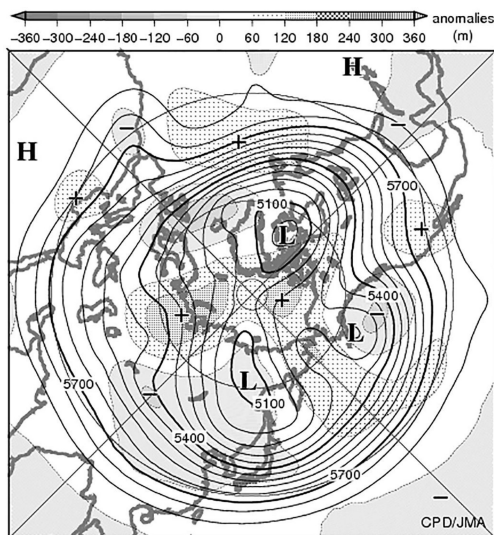
- ニュージーランド、オーストラリア南東部、米国西部～メキシコ北西部で異常高温となった。
- モンゴル中部～カザフスタン東部で異常低温となった。
- 中国南東部～フィリピン中部、マレー半島及びその周辺、ヨーロッパ中部～北アフリカ北西部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

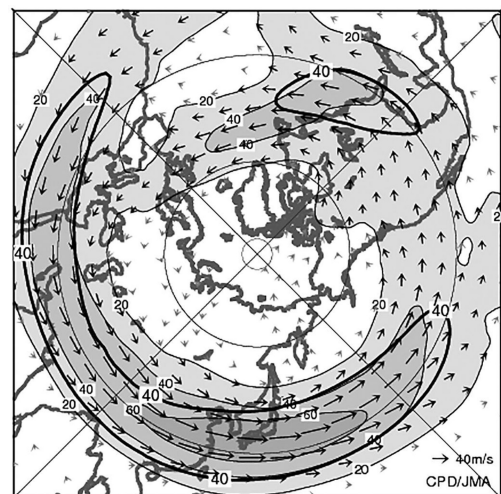
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



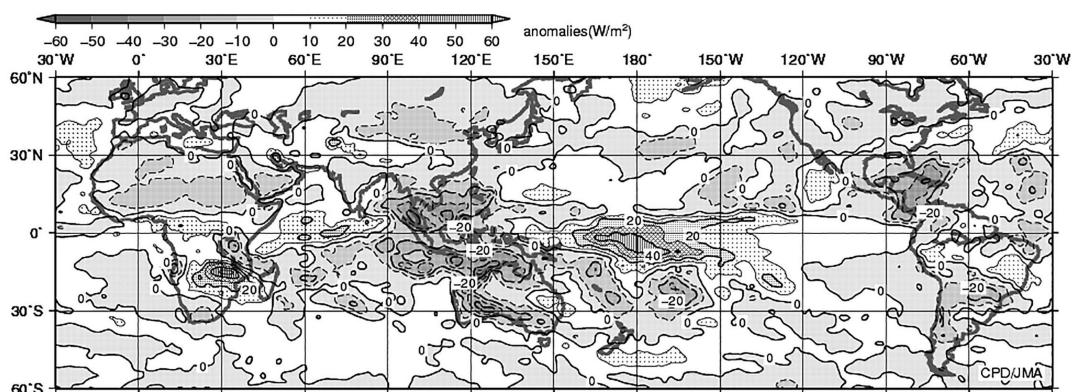
2018年1月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



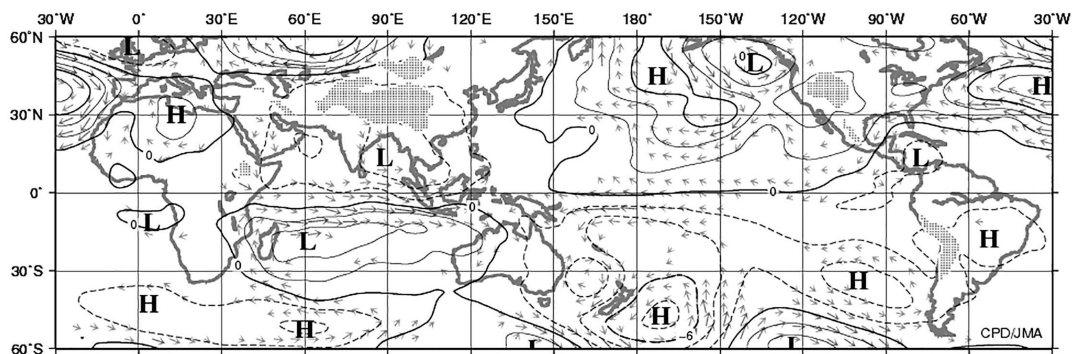
2018年1月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

等値線間隔は20 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は40 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

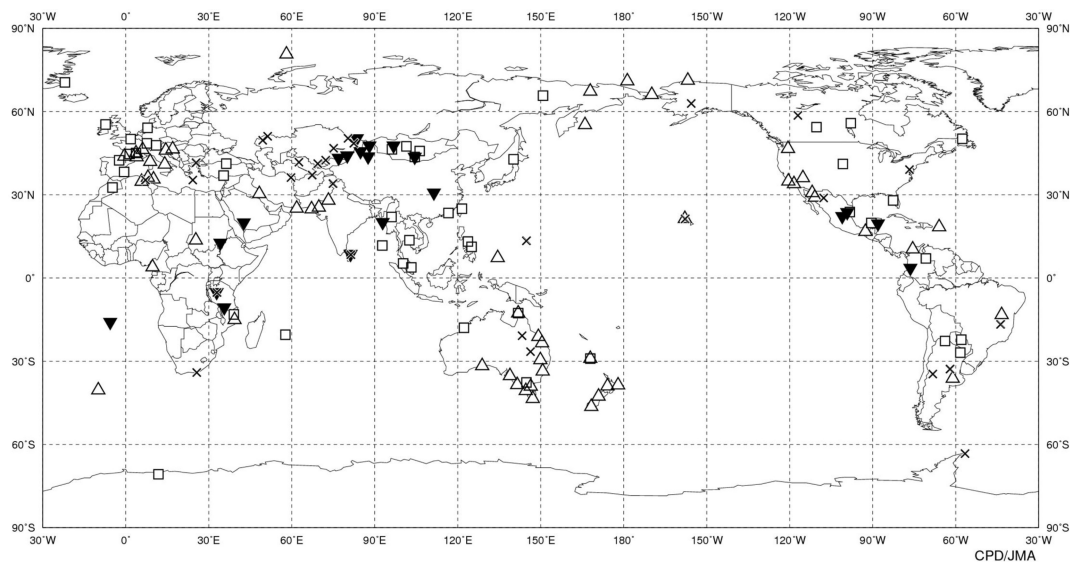


2018年1月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年1月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。